



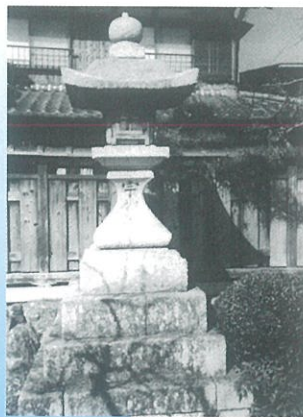
したという。

そして、この祠ははじめ富士島と呼ばれていたが、いつの頃からか福之島と称せられるようになったという。

時が移って、昭和十七年食糧増産の国策により中之湖の干拓事業が着手されて、終戦時に干陸化に成り、現在は小中之湖土地改良区の一区割となり周辺は、全くの農地集落となった。波の花散り淡水魚の宝湖だった辨天湖も今は黄金の稲穂の波を脚下に受け里の杜となり「陸にあがった辨天さん」と呼ばれる由縁である。

亦、嘗ての地「北出の浜」には、舟の安全のため常夜燈が今も残り地元の人々によって毎夜燈明が供えられている。

※弁財天正面の額に「辨財天の宝剣」のことが説明されています。  
ご一度読されることお奨めします。



| 祭典行事のあない |                     |
|----------|---------------------|
| 一月一日〜三日  | 午前九時 正月祭 年賀参拝       |
| 五日       | 午前十時 月並祭 護摩線香焚供養    |
| 二月三日     | 午前十時 節分祭・星祭         |
| 三月一日     | 午前十時 月並祭 豆撒・護摩線香焚供養 |
| 四月一日     | 午前十時 月並祭 護摩線香焚供養    |
| 四月第三日曜日  | 午前九時 大祭 護摩線香焚供養     |
| 五月一日     | 午後十時 月並祭 尊師・行者護摩焚供養 |
| 六月一日     | 午前十時 月並祭 護摩線香焚供養    |
| 七月一日     | 午前十時 月並祭 護摩線香焚供養    |
| 八月一日     | 午前九時 千日祭 住職 厳修      |
| 八月二十三日   | 午前十時 護摩線香焚供養        |
| 九月一日     | 午前九時 地藏盆 供養・百万遍     |
| 十月一日     | 午前十時 月並祭 護摩線香焚供養    |
| 十一月一日    | 午前十時 月並祭 護摩線香焚供養    |
| 十二月一日    | 午前十時 月並祭 護摩線香焚供養    |



近江の國 福之島辨財天  
近江八幡市安土町下豊浦弁天7437番地

後記  
このしおりを作成するにあたり 陸にあがった辨天さん福之島弁財天 (平成 25 年 9 月発行)  
西村一雄氏の資料を参考に編集しました。 令和 4 年 10 月



陸に上がった辨天さん

福之島辨財天



陸にあがった辨天さん

福之島辨財天の由来・由縁

福島辨財天

戦国時代の天文年間（1532〜1555）に豊浦に文吉という信心深い漁師がいた。ある日嵐に遭遇し、難破したにもかかわらず一命をとりとめた。その夜、比叡山無動寺の辨財天が夢に現られて、「日頃の信心からおまえを助けた」と告げられたため、打ち上げられた砂寄州に祠を建てて一層の信仰に励んでいた。

永禄二年（1559）浪速（大阪）の横堀に黒井屋勘兵衛という身延山七面天女像を篤く信仰する米問屋の主人がいた。ある夜、夢に七面天女像が現られて、「私を近江国安土豊浦の浜に移しなさい」と言われたので豊浦まで来たところ、浜にご本尊が祀られていない祠があったので、村人に話を話し、文吉の建てた小祠を改築して自分の辨財天をご本尊とし安置





## 御加護

辨財天は天部の神とされ、日本においては、武器や琵琶を手にした像で、祀られていることが多く、市杵島姫命と習合して広く信仰されています。また七福神の一神としても崇められています。

福之島辨財天、「豊浦の湖中に小島を築き一つの堂宇を建立して安置せる所の辨財天女と申し奉ります。釈迦如来御説法の会座に降臨しまして、我永く仏法を守護し、加ふるに人天に快樂を施し玉ふとの誓願の験しきことを今に至る迄、赫々として日に新らたなり、就中、在家素流の人々には「諸難消除・航海無難・福徳自在・廣大慈悲」の御利益あること、嘗て世の人の知る所のこと、係る靈験あらたかなる天女なれば誰れ人か信ぜられるや仰かざらん。」永祿の昔、米商黒井屋勘兵衛が安置せられし辨財天女信仰は、令和の今日に迄伝わり、四月の大祭・万人大護摩には、大阪より以前に比べ少なくとも、信者が訪れ参拝されています。「財を弁ずる」商売の神としても信仰されています。また、頭上に環を付けた集合を現らわす宇賀神が祀られています。この宇賀神は辨財天と結びついて食物、富貴、福寿が加わり人々の願いを殆ど聞き届けてくれる神であります。



## 福之島弁財天

### 御詠歌

有りがたや

みのりゆたけき

豊浦の

弁財天の

徳をたたえて

### 宝塔「南無妙法蓮經」

三名の信者によって建立される

書は、村雲御所瑞龍寺第十一世門跡日淨尼公の手なるものです。妙法蓮華經流布の為、当辨財尊天のご利益を授け給うため三名の信者妙法の高徳を宣布した宝塔があります。



### 辨財天遺跡

戦時中における弁財島内湖の干拓の結果、当時まで湖中に浮かんでいた弁財島の周辺から東北約数百メートルにかけて縄文時代から弥生時代にかけての遺物が発見された。特に縄文時代の押型文土器や爪形文土器など縄文早期に遡る土器が多数発見され、標高八三・二〜八二・八メートルの湖底に沈む湖底遺跡として、湖北町余呉川河口遺跡や竹生島対岸の葛尾崎東沖湖底遺跡とともに広く知られた著名なものです。



参拝の作法は仏式です。



四月の中旬の頃、少しの間見られる辨財天の「花筏」



## 万人大護摩の奉納

福之島辨財天で行われる護摩は万人大護摩と言われ、扇燈（彩燈）護摩の流れを汲むものです。無病息災、家運繁栄を祈りその御守護を受ける壮厳盛大な儀式。「禍災拔除」「息災延寿」「家内繁栄」「当業殷盛」「五穀豊穰」「祖国再建」等大祈願を執り行う、御靈験あらたかなる春季大祭（毎年四月第三日曜日）があります。

お堂前の広場で、四尺四方に積み上げられた護摩壇に松の青葉で覆い、十数人の修験者の読経作法の内にたくさん護摩札を投下し、立ち上る煙は中天に達す。西方の彼岸に紫雲と化す様は将に、願望達成の感ありて、参拝の人々皆無我の境地に入られます。



御神木護摩木一本 二百円也（令和四年現在）  
申し込みの節は、福之島辨財天世話へ。

